

近年 Aldosterone の Radioimmunoassay 法が開発され、現在では CIS 社より kit として市販されるようになった。われわれはこの kit を使用し小児の血漿 Aldosterone 値を測定した。

対象：昭和51年4月～昭和52年6月までの当小児科に入院した急性疾患患児のうち、軽快し主たる臨床症状がない者 175 名について早朝空腹安静臥位にて採血し、血漿 Albosterone 値を測定した。

成績：a) 新生児期における血漿 Albosterone 値は成人値とくらべ約 6 倍の高値を示したが、加齢と共に減少し、生後 6 ヶ月以降ではバラツキはあるが成人値とは有意の差はみられなかった。b) 各年齢別の男女差は認められなかった。c) 6 ヶ月未満での血漿 Aldosterone と体重あたりの経口 Na 摂取量には有意の相関は認められなかった。d) 1 ヶ月～6 ヶ月未満の血漿 Aldosterone と体表面積あたりの経口 Na 摂取量とはやや負の傾向がみられた。以上より 1 ヶ月～6 ヶ月未満の乳児での血漿 Aldosterone の高値は低 Na 食が関与していると考えられる。

21. RI による肥大型心疾患の診断

古舘 正従

(北大・放)

安藤 譲二 宮本 篤

小林 毅

(同・循内)

^{99m}Tc アルブミンによる心プールスキャンならびに ^{201}Tl による心筋スキャンは心筋壁厚みの判定に有用な方法であるが、この診断的意義を検討し、また、Echocardiography とも対比検討した。

対象は特発性心筋症の群、高血圧症、虚血性心疾患、大動脈弁膜症などによる左室肥大群、左室肥大のない対照例の 3 群とした。

検査方法は ^{99m}Tc アルブミン静注後シンチカメラにより ECG 同期心プールシンチグラムを作成。心室中隔の厚さ、左室後壁の厚さ、心室中隔と後壁の厚さの比および心室中隔と左室拡張終期容積との比などの計測を行なった。判定困難な時は

^{201}Tl 心筋スキャンを併用した。

結果は肥大型心筋症では心室中隔の肥厚が著しく、対左室後壁厚および対左室拡張終期容積との比でも、他の原因による左室肥大群と区別された。また、核医学的方法是 Echocardiography 同様、非侵襲的な screening test として心筋肥大の判定に有用な方法である。

22. RI による虚血性心疾患の診断

古舘 正従

(北大・放)

安藤 譲二 宮本 篤

小林 毅

(同・循内)

心筋 Scintigraphy により、新旧心筋梗塞および狭心症について冠血流分布の異常などの存在の有無および部位診断への有用性を検討した。

対象は急性心筋梗塞、陳旧性梗塞、狭心症、脚ブロック、健常者などである。

検査方法は心筋梗塞陽性像は ^{99m}Tc -Pyrophosphate 静注により、また、陰性像は ^{201}Tl -Cl 静注により得た Scinticamera 像について検討した。

結果は ^{99m}Tc -Pyrophosphate は急性心筋梗塞の症例で陽性像を示したが、梗塞発作後の最大に上昇した時の creatine phosphokinase 値との検討では CPK 値が低いもの（梗塞部位の狭い症例）では心筋梗塞部位の検出は困難であった。

心筋梗塞症の 50 症例での心電図と ^{201}Tl 心筋 Scintigram との梗塞部位の検討では極めて良い一致をみたが、一部の症例で Scintigram の方がより広い個所での梗塞巣を検出した。

狭心症の症例に実施した運動負荷心筋 Scintigram では、安静時に存在しなかった新たな cold area が描出され、心筋の予備力判定に有用であった。